

第5回 FMくらら857放送番組審議会議事録

1. 開催日時 平成28年7月26日(火) 11時00分～11時57分

2. 開催場所 ケーブルテレビ株式会社

3. 委員出席

審議委員総数 8名

出席委員数 7名

■出席委員(敬称略)

早乙女	洋	会	長(栃木市総合政策部長)
松本	静男	委	員(栃木市教育委員会教育部長)
茅原	剛	委	員(栃木市産業振興部長 栃木市観光協会専務理事)
寺崎	耕	委	員(栃木警察署長)
岸	英司	委	員(栃木商工会議所事務局代行 総務課長)
森川	剛	委	員(栃木青年会議所理事長)
大橋	良久	委	員(下野農業協同組合企画総務部長)

■放送事業者側出席者

高田	光浩	(ケーブルテレビ株式会社 代表取締役)
村上	正子	(ケーブルテレビ株式会社 取締役)
小林	康行	(ケーブルテレビ株式会社 執行役員兼事業本部長)
大川	進	(コンテンツ部課長)
石田	美也子	(コンテンツ部FMグループ係長)
清水	研児	(コンテンツ部TVグループ係長)

4. 報告事項

事業運営状況に関する報告に続き、対象番組等について、各委員より感想・意見・疑問点等を挙げていただき、他の委員と意見を交わす形式にて議事を進行した。必要に応じて放送事業者側出席者が説明・回答した。

5. 議事

①審議番組「koikoi-kulala」(平成28年6月23日放送分)

(事務局) ケーブルテレビ(株)の職場体験プログラムの一環として、中学生がラジオ生出演し、学校生活や職業観について紹介した。放送を聴いた地域住民から応援のメッセージが寄せられた。

- (委員) 今まで子どもたちがこうした仕事に関わる職場体験がなかったと思う。学校のことも子どもの口から話してもらうのは、大人が話すのとは違う。今後も継続して欲しい。
- (委員) 中学生出演番組は非常に良い。楽しい雰囲気だったが、職場体験自体をどうとらえているかという質問が欲しい。
- (委員) 地元中学生が出演する親しみのある企画である。
- (委員) 職場体験は、将来の中学生にとっていい内容だった。
- (委員) 高校生主体の番組があっても良いのでは。

②審議番組「浅見広明のココラジ」(平成28年7月9日放送分)

- (委員) 民間企業が帯で番組を持つのはいい取り組み。
- (委員) 小さな出来事に対する対処方法などが参考になる。メンタルに関する番組だが気軽に視聴できる内容である。
- (委員) メンタルヘルス対策が義務化されたタイミングでの、タイムリーな企画で良い。

③審議番組「ミドコロコエド」(平成28年7月17日放送分)

- (事務局) 放送中に震度4の地震発生。震度情報等をお知らせ。
- (委員) 地震情報がスムーズで何回も繰り返したのがよかった。
- (委員) 緊急性のある時にはBGMを止めて放送するなど、災害時の方針や対応マニュアルはあるのか。
- (事務局) 地震発生時の注意原稿は用意がある。最近、地震が頻発しており、震度別の対応を追加してマニュアルの精度を高めていく。
- (委員) 地震発生時の対応訓練は行っているのか。災害時に停電の心配はないのか？
- (事務局) 緊急時の対応訓練はFMとTVが連携し定例で行っている。回数増加などで発災に備えていきたい。なお、停電時でも放送を継続できる体制を整えている。
- (委員) FMの存在意義は災害時の情報伝達。この目的を市民に伝えれば、アプリダウンロードにも役立つ。アプリでは防犯情報のメール配信もあり、防犯の役割も果たしている。
- (委員) 音楽が多く平時とあまり変わらない印象。口調を変える、市民に対して被害がないか情報を募るなど呼び掛けがあればよかった。
- (事務局) 不安を煽らないよう冷静さを保ちながら注意喚起する訓練を積んでいく。また、情報が入った時点で音楽をフェードアウトして速やかに伝えるなど、どのパーソナリティも対応できるよう体制を整えていきたい。

6. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

FMくらら857ホームページに掲載（平成28年8月掲載）